

ろされた動物たちは、電動式の柵でガス室に誘導される。二十匹ほどが入ると、ガス室は密閉される。途端に、炭酸ガスが充填されて、動物たちは数分以内に眠るように昇天する。

コンパニオン・アニマル

炭酸ガスを使う方法は、全国的に採用されている。

東京都動物愛護センターの櫻井忠雄所長が嘆いた。

「炭酸ガスを使うのは、催眠効果があって、動物たちに苦痛が少ないと世界的に認められているからです。」

ほんとうはね、こんな仕事は

そのまま奥の焼却炉に送られて、煤煙や悪臭が発生しないように、都市ガスで骨になるまで焼却される。これらの行程は、人が見ないで済むように、オートメーションで行われるという。

やりたくないんだ。私は動物の命を救う獣医ですよ。それなのに、可愛い動物たちを安楽死させなくてはいけないなんて、どんな気持ちで仕事をしているかを考えてくださいよ。

……辛いですよ」
このセンターの仕事のひとつに、譲渡用ペットの斡旋がある。動物管理事務所に引き取られた子ネコや子イヌの中で、飼い主がはつきりしていて、それも生後二カ月から三カ月のものに限って、譲渡用として処分をまねがれるものがある。それらにしても、新しい飼い主が現れなければ、二カ月以上の余命は与えられない。

ペットが処分されている施設とは知らなかったにしても、無神経な話ではないか。
「それでもペットの需要は今後増える」と言うのは、前出の日本獣医師会・池澤事務局長である。「今でも、一世帯の平均は三人を切っています。核家族化の傾向は、これからも続くでしょう。その時、人間を慰めてくれるのは、ペットしかありません。だから私たちは、ペットとは言わないで、伴侶動物という意味でコンパニオン・アニマルと呼んでいます。」

このまま地価高騰が続けば、マンションやアパートでペットを飼いたいという人が増えてくるはずだ。それを実現するためには、飼い主が社会と動物に対してもっと責任を持って、もたらなくてははいけません」
九月末の動物愛護週間を前に発表された総理府のアンケート調査では、「ペットを好き」、「嫌い」、「どちらでもない」が三分の一ずつだった。

お酒を飲む仕事で忙しい 食事が不規則 こんな方に「吸収のよいタンパク質」を！

作家の遠藤周作先生

にすめられ、

肝元をのんでいる。

たしかによい。

私も折あるごとに、とどろきにすめ、

よるこばれている。



藤田監督

動きすぎのあなたの体に大切なのは、良質のタンパク質の補給です。そして、そのタンパク質は、植物性のものより動物性の方が大切だといわれています。なぜなら、動物性のタンパク質の方が栄養価が高く、アミノ酸のバランスがよいからです。

しかし、肉や卵から動物性のタンパク質を毎日とっていると、脂肪過多になりますし、飽きもきます。そこで、バイオの協和発酵によって開発されたのが、濃縮タンパク液「肝元」です。肝元は、天然のコーレーン原料に、独特の酵素分解法によってつくられた濃縮タンパク液で、脂肪はゼロ。しかも大変に吸収がよいので、少量で良質のタンパクが補給できます。

カプセルタイプもできました。



●肝元は、全国のデパート、スーパー、薬局にあります。
(液) 30ml・250ml・500ml (カプセル) 120cap

発売元 SHサンヘルス
〒104 東京都中央区京橋3-2-8
☎東京(03)271-8381/大阪(06)271-3461

製造技術 協和発酵 (新規事業推進本部)
提携先 〒100 東京都千代田区大手町1-6-1